

学校の教育目標	国際社会に貢献できる人間の育成を目指して ・人権を重んじ自他を敬愛する(礼儀) ・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る(自律) ・心身を鍛え個性の発揚を図る(自律) ・所属社会の向上と環境改善を目指して着実に努力する(開拓)
----------------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標
1、生涯学習という視点に立ち、生徒が主体的に学ぶ意欲・態度や創造的に取り組む意欲・態度、及び変化する社会の中で自己実現するための生きる力を 2、自ら課題を見つけ解決できる能力、現在から未来の生活を見据える中で自己理解をし、自己をよりよく生かすために必要な生きる力の育成に努める。 3、様々な体験学習を通して協働的に物事に取り組み、自己の考えを再構築しながら、積極的に集団や社会に参画しようとする態度を養う。

育てようとする資質や能力及び態度		
知識及び技能		
第1学年	第2学年	第3学年
人間関係づくり、共生社会を考える場としてのふれあい学習から自他の違いを知り認めあう態度を育てる。	自然が豊かな地域での生活体験(林間学校)を通し、自己の生活と生き方を考えようとする態度を育てる。	集団や地域の一員としての役割を自覚させると共にリーダーの育成を目指し、互いを認め、協力する態度を育てる。
思考力・判断力・表現力等		
第1学年	第2学年	第3学年
国際理解教育として留学生との交流会を通し、国際的な視野を広げる機会とする。	プレゼンテーションなどの場を設け、自ら調べたことや体験したことをまとめ、再構築して伝えていく力を養う。	集団討論練習や面接練習を通して、社会の中の課題を見つめる態度を養い、より豊かな将来を生きる力を育てる。
学びに向かう力、人間性等		
第1学年	第2学年	第3学年
近郊の文化・歴史の調べ学習と体験学習によって、身近な地域を知り、実際に触れることにより、自己の現在の生活を考える。	進路学習を通して自己の進路に興味をもち、どのような進路選択があるのかを自ら考える態度を育てる。	国際人としての異なる文化や意見を受け入れるとともに、日本の伝統や国際社会の中での役割を考え、自らが国際社会に貢献しようとする態度を育てる。

内 容	学習対象	学習事項
第1学年	近郊の文化・歴史の調べ学習と体験学習によって、身近な地域を深く知る	・地域の伝統や文化のもつ特徴とその歴史的背景 ・近郊の交通網や交通事情の課題
第2学年	自然が豊かな地域での生活体験と、働くことの意義や喜び、働く人の思いを探る	・地域の風習、文化、気候と産業や職業との関り ・地域産業の課題と取り組み
第3学年	古都の文化・平和教育や調べ学習と体験学習によって、日本の伝統や国際社会の中での役割を考え、自らが国際社会に貢献しようとする態度を育てる	・古都の文化や歴史と現在の様子 ・平和教育による世界平和への課題 ・国際社会の中での日本の役割

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・1年生は近郊の地域を調べ、2年生は自然の豊かな地域の調べ学習を行う。3年生は古都の調べ学習を行い、その歴史や文化を探る。また、各学年でより良い進路学習を考え、職業の種類・勤労の意義や喜び、上級学校について学び、実際の進路選択へと生かしていく。	・学年に応じた生徒の課題意識を発展させる調べ学習 ・調べたことを実践し、さらに自己の考えを再構築、深化させて	・学年を縦断しての情報交換と生徒の発表の場の設ける ・運営委員会、進路指導部を中心としての校内の支援体制の確立	・生徒一人一人の変容や成長を見取り、その良さを褒める個人内評価の重視 ・ポートフォリオや学習物を蓄積・活用した評価の充実